

# 地 域 再 生 計 画

## 1 地域再生計画の名称

岡崎都市圏／危機管理能力高度化計画

## 2 地域再生計画の作成主体の名称

愛知県並びに岡崎市及び額田郡幸田町

## 3 地域再生計画の区域

岡崎市及び額田郡幸田町の全域

## 4 地域再生計画の目標

岡崎市と幸田町で構成する本計画区域は、愛知県のほぼ中央に位置し、水と緑豊かな自然環境や生活環境に恵まれた地域であり、面積444.02平方キロメートルで、愛知県の8.6%を占めている。東名高速道路、J R東海道本線など日本の東西を結ぶ国土幹線交通網が整備された広域交通の要衝として、経済、教育、医療、衛生、交通など様々な面で密接に関係した一体性の強い都市圏を形成し、人口も着実に増加している。

岡崎市は、自動車、電気機器などの機械系産業や繊維産業が発展し、古くから西三河地域の商業、文化、教育、医療、行政の拠点機能が集積した中央部とその大半を森林溪谷が占める東部とで形成されており、都市・農山村の両面を備えた都市である。当該東部では、自然環境を活かしながら、国道473号沿線で住宅地形成や産業集積が進み、平成26年には、新たな国土幹線である新東名高速道路インターチェンジが計画されており、将来に向けたまちづくりの可能性を持った地域となっている。また、幸田町は、農業地帯として発展してきたが、幹線交通網の整備や産業立地が大きく進展し、農業、産業、居住が調和する町となっている。平成23年度末には、J R東海道本線に新駅が開業する予定となっており、今後も、こうしたポテンシャルを活かしたまちづくりが期待できる町である。

このような現状を背景として、本計画区域では、既存の都市機能集積や豊かな自然環境、歴史・文化資源の蓄積等を活かしながら相互にネットワーク化を図り、次代に向けて挑戦（Try）する都市圏の形成を目指して『三河を拓くトライネット圏域創造計画』（平成17年度～21年度）を策定し、幹線道路へのアクセス機能を有する市町道を集中的に整備し、岡崎市中心部や近隣都市圏との交通機能強化による生活利便性の向上と産業基盤の強化を図るとともに、都市・農山村交流を通じた森林

や里山、河川等の自然環境保全・活用、地域農産物の消費拡大、林業の生産性と森林の公益機能性の向上を図ってきたところである。

このように本計画区域は、国道1号、国道23号、国道248号、国道473号を交通軸の中心に、主要地方道や一般県道によって多機能な広域道路網が構築されており、その周辺に良好な住宅地が形成されるとともに、高度医療機関や大型商業施設、大規模工場が集積している岡崎市中央部と幸田町、そして森林・里山や溪谷など豊かな自然環境を有する岡崎市東部を環状的にネットワークし、日常消費、救急医療、高等教育、産業活動など多岐にわたる圏域内の交流・融合を支えている。しかし、東海地震に対する地震対策強化地域（平成14年4月）と東南海地震に対する地震防災対策推進地域（平成15年12月）に指定されている本計画区域では、日常的な交通需要に備えるだけでなく、避難活動、救援物資の輸送、緊急車両の移動など被災時特有の交通需要にも対応できる代替性と防災性に優れた緊急輸送道路ネットワークとしての広域道路網の整備が喫緊の課題となっており、広域道路網と公益施設や集落との連結、幹線道路相互の連絡など、補完的に広域道路網の一環を形成している市道と町道の整備を引き続き推進しなければならない。

また、本計画区域は、矢作川とその支流である乙川、広田川のほか、伊賀川、鹿乗川等の流域に広がっており、これらの河川群は、暮らしに欠かせない水と市街地に貴重な自然環境をもたらしているものの、梅雨期、台風期には多くの浸水被害を引き起こしている。平成20年8月には、これまでに経験したことのない局地的な集中豪雨によって河川堤防の損壊や内水氾濫が発生し、死者、家屋倒壊・浸水、農地冠水等の甚大な被害を受けたことから、緊急情報を家庭・地域に直接伝達する体制・システムの整備、河川の大規模改修、下水道や貯留浸透施設の整備といった短期的な対策と、森林の整備や林業の振興、自然保護活動を通じた森林・里山の保全といった長期的な対策に取り組まなければならない状況下にある。特に、長期にわたる林業の衰退に伴う森林荒廃は、近年の林業従事者の減少や高齢化の進展により一層加速されていることから、高性能林業機械や森林GISの導入、林道整備等の公的支援を強化し、林業の振興と森林が持っている多様な公益的機能の回復を図る必要がある。

今後、このような自然災害に住民、団体、企業、行政等が一体となって対応するため、庁舎の中央防災拠点化、コミュニティ防災拠点の整備、自主防災活動の支援など圏域全体で危機管理能力を高めるとともに、河川通水力や市街地保水力の強化、緊急輸送力の強化など、自然災害に対する高度な予防能力と応急能力を備えた都市構造を有する都市圏への再生を目指す。

- 目標1 高度な応急能力を備えた緊急輸送道路ネットワークの再生  
災害拠点病院への移動時間の短縮  
(災害危険地区 ～ 岡崎市民病院 平均39分 → 平均36分)
- 目標2 地域における主体的な防災活動の活性化  
防災マップを作成した自主防災活動団体の増加  
(防災マップ作成団体数 128団体 → 250団体)
- 目標3 林業の振興  
間伐等森林施業面積の拡大  
(年間間伐面積 300ha → 360ha)
- 目標4 高度な予防能力を備えた都市河川の再生  
H20. 8月末豪雨相当の降雨による床上浸水区域の低減  
(床上浸水区域 63.1ha → 39.2ha)

## 5 目標を達成するために行う事業

### (5-1) 全体の概要

本計画では、平成20年8月末豪雨において、家庭や地域への情報伝達体制が十分ではなかったことから、岡崎市においては、避難情報や地震速報を伝達する「防災ラジオ」の配布、浸水常襲地区の浸水計と連動した「警報装置」の設置、災害発生時に地域との連絡、調整を行う「地域防災連絡員」の配備、携帯電話で撮影した被災箇所の写真、位置等を同時送信できる「災害フォトシステム」の導入、岡崎市内にある携帯電話に緊急情報を強制配信する「エリアメール」の導入など、災害情報の共有化と情報提供の多元化を順次進めていく。また、幸田町においても、緊急情報を伝達する「防災行政無線個別受信機」の配布や「マ・メール」の導入など、災害情報の共有化と情報提供の多元化を進めていく。

また、補完的に広域道路網の一環を形成している岡崎市道と幸田町道を集中的に整備し、被災時特有の交通需要にも対応できる代替性と防災性に優れた緊急輸送道路ネットワークの構築を目指す。その際、林道（尾張西三河地域森林計画に位置付け）を一体的に整備することで、本来その目的としている林業振興のほか、山村地域の生活道や被災時の避難路など圏域内の広域道路網とネットワークした多機能な道として機能の充実を図る。

そして、当該豪雨で甚大な被害が発生した広田川流域、伊賀川流域、鹿乗川流域で集中的な浸水対策を実施し、これらの流域における床上浸水の解消を目指すとともに、水生生物の生息環境の保全・再生、周辺環境と調和した河川景観の維持・形成など河川環境に配慮した整備を進める。

## (5-2) 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

### 【道整備交付金を活用する事業 (A3001)】

整備箇所等は、別添の整備箇所を示した図面による。

[施設の種類 (事業区域)、実施主体]

- ・市町村道 (岡崎市、幸田町) 岡崎市、幸田町

市道・町道：道路法に規定する市道・町道に認定済み

市道学校橋仲田線：昭和56年 3月31日

市道桜形高薄線、市道中金明見線：昭和57年 3月27日

町道岩堀郷中1号線、町道長嶺大草1号線：昭和58年 3月25日

市道大東井田線：昭和58年 3月28日

市道上平石田線、市道岩津住宅7号線、市道北野町線ほか1路線、市道北野  
舳越堤線、市道宇頭1号線ほか1路線、市道宇頭17号線、市道上青野中屋敷  
線ほか2路線、市道渡東牧内線ほか1路線、市道上和田牧御堂線、市道細川  
徳林3号線ほか1路線、市道城北能見通線、市道福岡幸田線、市道池金本宿  
線、市道大幡赤坂線、市道東名側道42号線、市道岡町52号線、市道島坂18  
号線、市道竜泉寺13号線、市道大平橋美合線、市道市場蟹沢橋線、市道竜泉  
寺32号線、市道藤川西川向1号線、市道藤川河原線、市道舞木8号線、市道  
池金鉢地川提2号線、市道滝日影1号線、市道池金金山線、市道稻熊二丁目  
線、市道桑谷11号線、市道舞木小井沢3号線、市道本宿保育園八反橋線：昭  
和61年 4月 1日

市道竹ノ花東向寺線：平成元年 3月27日

市道片寄滝尻線：平成 5年 3月31日

市道米河内本坂1号線：平成 5年 7月 7日

市道原下衣文線、市道牧平淡淵線：平成13年 3月30日

市道岡崎聾学校線：平成14年 3月27日

市道丸岡線：平成18年 3月30日

市道仁木八反田5号線：平成20年 7月 2日

市道上衣文28号線：平成21年 3月31日

- ・林道 (岡崎市) 愛知県、岡崎市

森林法による尾張西三河地域森林計画 (平成17年12月28日樹立) に路線を記載  
林道石原河原線

[事業期間]

- ・市町村道 平成22年度 ~ 26年度
- ・林道 平成22年度 ~ 26年度

[整備量及び事業費]

- ・市町村道

道路整備	10,729m	5,313,000千円	(うち交付金2,656,500千円)
橋梁耐震	26橋	73,000千円	(うち交付金 36,500千円)
・林道	7,500m	90,000千円	(うち交付金 45,000千円)
総事業費		5,476,000千円	(うち交付金2,738,000千円)

### (5-3) その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用して、補完的に広域道路網の一環を形成している市道と町道を集中的に整備するほか、計画区域全体として危機管理能力を備え、自然災害に対する高度な予防能力と応急能力を備えた都市構造に再生するため、以下の事業を一体的に展開する。

#### 【災害応急対策緊急事業】

- ・ 8月末豪雨の浸水地区と希望者に「防災ラジオ」を配布（岡崎市）
- ・ 全戸に「防災行政無線個別受信機」を配布（幸田町）
- ・ 市内の携帯電話に緊急情報を強制配信する「エリアメール」を導入（岡崎市）
- ・ 町内の携帯電話に緊急情報を任意配信する「マ・メール」を導入（幸田町）
- ・ 浸水常襲地区に浸水計と連動した「警報装置」を設置（岡崎市）
- ・ 小学校区毎に中堅職員1人を「地域防災連絡員」として配備（岡崎市）
- ・ 被災箇所の写真、位置、時間、コメント等を同時送信する「災害フォトシステム」を導入（岡崎市）

#### 【床上浸水対策特別緊急事業】

平成20年8月末豪雨において、多数の床上浸水が発生した広田川、伊賀川、鹿乗川流域の浸水被害を軽減するため、河道改修、築堤、遊水地等を重点的・緊急的に整備する計画である。河川改修にあたっては、瀬、淵の維持など水生生物の生息環境の保全・再生、周辺環境と調和した河川景観の維持・形成など、河川環境に配慮した整備を行う。

#### [事業区域、実施主体、事業概要]

- ・ 広田川（愛知県） 河道改修（L=2800m）
- ・ 占部川（岡崎市） 河道改修（L=3400m）、遊水地整備
- ・ 砂川（愛知県、岡崎市） 河道改修（L=600m）、下水道雨水ポンプ場建設
- ・ 伊賀川（愛知県、岡崎市） 河道改修（L=2400m）、流域貯留施設整備、堤外家屋群移転
- ・ 鹿乗川（愛知県、岡崎市） 河道改修（L=800m）、築堤護岸、流域貯留施設整備

#### [事業期間]

平成21年度 ～ 25年度

### 【水とみどりの森の駅事業】

地域団体、NPO、自然保護団体等が、教育活動、イベント、観察会等を通じて自然保護活動の場としてきた里山、湿地、溪谷等を「水とみどりの森の駅」に位置付けその活動を支援することにより、自主的な自然保護活動の活性化に繋げる。

#### [森の総合駅]

- ・ 森の駅で環境活動を実践する団体等の活動拠点、来訪者のゲストハウス
- ・ 森の案内人登録、緑のインストラクター養成

#### [おかざき自然体験の森]

- ・ 市街地近郊の里山（約100ha）を体験型環境学習の場として整備
- ・ ボランティア団体と協働して多様な環境教育活動を実践

#### [おおだの森]

- ・ 住民に親しまれてきた里山（約67ha）を自然体験の拠点として整備
- ・ 自然保護団体「山留舞会」による保全活動

#### [千万町茅葺屋敷]

- ・ 古民家を農業、田舎暮らしの体験型施設として整備
- ・ 地域活動団体「じさんじょの会」による運営

#### [わんPark]

- ・ 4.6haの耕作放棄地を自然の中の環境学習の場として整備
- ・ 地域活動団体「やっとかめ会」による環境保全活動

#### [北山湿地]

- ・ 環境省が選定した国内重要湿地（約26ha）を自然観察の場として整備
- ・ ボランティアによる環境保全活動と観察会の実施

## 6 計画期間

平成22年度 ～ 26年度

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

毎年度計画に掲げた事業の進捗状況を確認するとともに、計画終了後に必要な調査を行い、その状況を評価し、達成状況の評価、改善する事項の検討を行う。その結果については、報告書を作成するものとする。

## 8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

### [新東名高速道路インターチェンジの開業に伴う事項]

平成26年度開業予定の新東名高速道路インターチェンジは、圏域外からの広域的な交流・輸送のゲートウェイとなるものである。このため、圏域を横断している国

道1号から当該インターチェンジへ通じる国道473号や主要地方道岡崎清岳線など  
広域幹線への道路ネットワークの整備を推進する。